

# 夏の大家族ごっこキャンプ in 軽井沢 レポート

- ◆実施日：2012年7月27日(金)-29日(日)
- ◆場所：長野県軽井沢市 ハーモニーハウス
- ◆参加者：大人24名、こども16名 計40名
- ◆協力：社団法人E.カニングハム記念青少年音楽協会 / マクロビアン

## <1日目>

キャンプ初日は軽井沢も30度を超す猛暑でしたが、開催地のハーモニーハウスは木々に囲まれたとても静かな場所にあり、まるで時間が止まっているかのような雰囲気でした。広い敷地に鳥の声だけが響いています。

初めに、ホールで参加者が集まり、ハーモニーハウスを所有する社団法人青少年音楽協会の雑賀さんから施設についてのお話を伺いました。深夜に騒ぐこと以外は何をしてもいいですよ、初心者でも楽器は自由に弾いてください、とありがたいお申し出。宿泊室にはアップライトピアノ、広いホールには白いグランドピアノが置いてあり、好きなように弾いていいとおっしゃるのです。2泊3日のキャンプ中、音(メロディ)が聴こえない時はありませんでした。

しばらくのんびり過ごした後、突然ハデハデ衣装に身を包んだなおやマンが登場！いったい何が始まったの！？みんなびっくりです。

お日様パーティーがスタートしました。

みんなで手作りした装置を持って外で太陽光を集め、暗闇のパーティー会場に入ったら歓声が上がりました。蛍の群れのような光が部屋中にひろがり幻想的です。

まじめな科学実験が、コメディタッチの笑いとおどろきの連続で会場は大盛り上がり。

すごいぞ！なおやマン！！

次は、去年お世話になった静岡の長光寺住職の柿沼和尚さまが音楽ワークをしてくださいました。お盆のおつとめの中、1日だけでもと駆けつけてくださったのです。

そしてなんと、和尚さまがヒップホップ系アーティストに変身！

「自己紹介しようぜい！！」

みんなが音を出しリズムをとりながら、和尚さまの英語の質問に答えています。

そして一人一人と質問が進むうちに、どんどん音も声もノリも大きくなっていきます。

それもそのはず、和尚さまは世界中を旅していた時に、こうして音楽を通してすぐに現地の人と仲良くなっていたそうです。

あっという間に、その場にいた誰もが何日も共に過ごしているかのような雰囲気になりました。



その後の夕食では、和尚様が「いただきます」の号令をかけてくださいました。

今この時も飢えて死んでいく人たちのことを思いながら、自分の食べ物を少しずつ皿に盛り、手を合わせ「いただきます」。

## <2日目>

翌朝は、近くの公園へお散歩です。そして、再び合流したなおやマンと、エアロケットや香りがするシャボン玉で遊びました。通りすがりのこどもも誘って、走り回りました。



お腹をすかせて帰ったら、お庭に流しそうめんの会場が用意されていました。  
青竹の香りが良い装置ができるまでには、手間のかかる作業がありますが、屋外でみんなで食べる流しそうめんは格別の味がします。  
「あ〜今すくえなかった〜！」  
「わわわ〜ここにいっぱいたまってるよ〜！誰か手伝って！！」  
「今度は私が流してみたい！」  
約1時間半、歓声が絶えることがなく、そしてみんなのお腹も満たされたのでした。



午後はなおやマンの科学ショー&マリンバとバイオリン2人の音楽家による演奏会がミックスされたイベントが催されました。  
相変わらず派手な衣装で登場したなおやマンが笑いを、音楽家の2人が癒しをもたらし、小さな子どもも飽きることなく見入っています。  
全員参加の合奏では「会津磐梯山」を演奏しました。  
夕方からはお料理ワークの始まりです。  
大人男女と子ども男女の4つのグループに別れて料理をつくり味を競います。  
そして夕食はこの料理を頂く事になります。  
準備をするときに、スタッフのお母さんたちは悩みました。  
子どもだけのグループが2つもあって大丈夫かしら？得体の知れないものが出来て残ったりして…材料を粗末にしたくないな〜。ある程度完成品が想像できる材料を用意しようよ！  
準備されたものを見た季世恵さんから一言。  
「これじゃおもしろくないでしょ？」  
条件付の選択肢で子ども達のわくわく感や想像力を奪ってしまってはいけないよね、とお母さんたちは気づきました。

つついりリスクを考え、主導権を握ろうとしたお母さん。  
遊び心は大人の方が必要なんですね。

2時間後出来上がった料理は、奇跡的にも(?)見た目も鮮やかでとっても美味しそうなものになっていました。

ミスター作品：野菜たっぷりおやき＝「オヤキジー」

ボーイズ作品：ソーメンを使ったチャンプルー＝「焼きそうめんスペシャルX」

ガールズ作品：昨日の残りのハヤシライスのアレンジしたドリア＝「ハヤドリ」

ママズ作品：残った食材をみんな使った＝「ママの愛情スープ」

出来上がった料理を発表する顔が満足そうで、楽しく作った事を物語っていました。

ブッフエスタイルで夕飯をいただきます！

マジうま！！

投票箱に投票する厳正な審査の結果、「ハヤドリ」が1票差で「焼きそうめん」を抑えて優勝しました。

### <3日目>

朝食後は「対話の時間」です。講師は志村季世恵さん。

大家族ごっこでは、自然遊びと同様「対話の時間」を大切にしてきました。

大人も子どもも一緒になって様々なテーマについて話し合い、自分に引き寄せて考える事を続けています。

今回のテーマは「やさしさ」についてです。

季世恵「40人はひとつの村。そこに5つの家族をつくりましょう。本当の親子は離れてね」  
大人と子どもが混ざった、なんちゃって家族ができました。

季世恵「楽しい時ってどんな時？辛い時ってどんな時？」

楽しい時は、みんなで一緒に何かをした場合。辛い時はみんなの中で孤独を感じた場合が多いようです。



季世恵「家族に必要なものって何かしら？」

-命、環境、仲間、ご飯、勇気、家、やさしさ、元気、何かをする力、手伝い、人…。

季世恵「足りているもの、不足しているものを話してください」

-放射能が気になって安心して暮らせる環境がない。

-情報が多すぎて何が本当なのか分からない。

-問題に対してみんなで話し合う機会が少ない。

甲状腺の検査がなかなか受けられないと言う話に対して、季世恵さんがみんなに問いかけました。

「甲状腺の検査ってどんなものかみんな知ってる？」

東京の人たちは…分からないと答えます。

福島の人たちから検査の仕方について説明をしてもらいました。

そして、やっと目の前にいる家族が不安を抱えながら暮らしている境遇を実感しました。

季世恵「知らない事はわかる必要があるよね。そして分かる幸せがあるの。家族みんなが知り合う事が幸せなんですよ」

この言葉で、みんなの表情が引き締まりました。

傷ついている人を励ましたい、助けたいという思いだけでは、本当の意味では知り合えないと気づきました。



季世恵「本当のやさしさってなんでしょうね？」

- 忘れないこと。
- 知りたいという気持ちを持つこと。
- 思いを共にすること。
- 情報を正しく伝えること。
- 行動に移すこと。

自分ではどうしようもないと思っていた事を、本当にそうなのか？と、みんなが真剣に自分に引き寄せて考え始めました。

季世恵「今日から何をすれば良い？みんなで決めた事を発表しましょう」

- 不安なときは声に出して話し合ったり相談したりする！
- 何かのせいにする事を止めよう！
- 節電！
- 情報を知ろうとし、それを元に自分で考える！
- 忘れないように気かけ合う！
- 大家族ごっこを続ける！

発表を終えたとき、みんなの顔は晴れやかでした。家族で決めたことを村民で共有し思いがひとつになったのです。

みんなが導き出した事は、どこに住んでいても、大人でも子どもでも出来ることです。

生きるうえで大切なことは、環境や年齢や立場を超えて共通していると知りました。

対話の時間が終わり、お昼ご飯、すいか割りをして、最後に振り返りの時間を持ちました。

印象に残った事をひとりずつ述べていきます。

みんなで料理を作った事、そうめん流し、すいか割り、みんなで手をつなぎひとつになったとこ、孫がたくさん出来た事！etc.

そして、再会を約束して解散しました。

大家族ごっこで経験した事を「あ～楽しかった！」で終わりにせず、家に持ち帰って実践する事が何よりも大切です。一人ならば難しいけれど、みんなで決めた事だから続けていきたいと思えます。



☆この事業は、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を一部受けて実施されました。